

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4071601811
法人名	医療法人八十八会ツジ胃腸科医院
事業所名	グループホームこすもす
所在地 (電話番号)	久留米市上津町字下千束1217-1 (電 話) 0942-21-0790
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年2月16日

【情報提供票より】(平成21年1月21日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 9人, 非常勤 7人, 常勤換算 12.6人

(2)建物概要

建物形態	併設/ <u>単独</u>	<u>新築</u> /改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,210 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	986 円	

(4)利用 1 月21日 現在

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名
要介護3	8 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88 歳	最低 80 歳	最高 100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ツジ胃腸内科医院、新古賀病院、聖ルチア病院、サン歯科、三宮整形外科
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

久留米市上津町の桃太郎川のそばにある緑豊かな閑静な住宅地に、医療法人を母体とする明るい感じのホームが建っている。運営者は、福祉に意欲的に取り組み複数の施設を設立、介護の必要な高齢者に「その人らしい生活を自分の意志で安心して楽しく地域と共に暮らす」を理念に地域との交流を図りながら利用者、職員共に寄り添い利用者一人ひとりを大切に、人としての誇りを傷つけないよう、暖かく見守り支援している。地域の夏祭りや諸行事に参加し、交流を深めながら家庭的な環境を大事に介護支援がなされている。今後、さらに地域に根ざしたホームとして期待されるところである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善課題を、全職員で検討している。改善点については、速やかに取り組み、サービスの向上に活かされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員、評価を受けることで日常の介護の見直しの重要性を十分理解し、自己評価を全職員で行いながら改善すべきは検討し、介護の質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、家族、町内会長、包括支援センター、市職員の出席のもと、運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。外部評価の報告や、意見交換を行い、介護保険制度や高齢者福祉に関する情報を得ると共に、高齢者への理解を深める有意義な会議になっている。意見や助言は速やかに日々の介護に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	ホームの苦情窓口、並びに公的窓口を紹介すると共に、各ユニットに、意見箱を設置している。利用者の暮らしや健康状態の報告は、家族等の訪問時、電話連絡、ホーム便り等で行ない、ホームでの生活の写真を掲示したり、アルバムを作り、報告のきっかけにしている。月に一回、利用者の相談にのつたり話を聞いたりする、介護相談員を受け入れている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事のどんと焼きや夏祭りの見学、ホーム横の桃太郎川の土手の清掃参加、川に飛来する鴨への餌やりをしたりして地域との交流を図っている。川べりは地域の方々の散歩道になっており、出合いを大切に挨拶を交わしている。ホームの諸行事の際には地元の人たちの参加を得て交流に努め、グループホームを知ってもらおうにしている。

2. 調査結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念として「安心、安全、自立」を掲げている。また、「自分の力、家族の力、地域の力」を理念の補足としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ロビーに掲示されている。毎日、朝のレクレーションの前に、視覚に不自由な利用者には大きな文字で記載した理念を配り、必ず職員も利用者と共に唱和している。職員も意識し理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事のどんと焼きや夏祭りの見学、ホーム横を流れている川の土手の清掃参加、川に飛来する鴨への餌やり等をしている。川べりは地元の人たちの散歩道になっており、出合いを大切に挨拶を交わしている。ホームの諸行事の際には地元の人たちの参加を得て、地域との交流に努め、グループホームを知ってもらおうようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けることで、日常の介護の見直しの重要性を十分理解し自己評価と共に、改善材料と考えている。全職員で検討しながら介護の質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、町内会長、包括支援センター、市職員の出席のもと、2ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。外部評価の報告や事業所の取り組み等、現状報告を行い、参加者からの意見や助言を聞き、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会へ参加し、日常の情報はメールで得ている。今年1月から開始された市主催の地域密着型サービスの研修に参加し、介護保険制度や高齢者福祉に関する情報を得ると共に、必要に応じて連携が取れるよう情報交換に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用契約時に権利擁護に関する制度について本人、家族に説明をしている。現在、権利擁護に関する制度の利用者はない。職員は勉強会等で制度について認識している。権利擁護、成年後見制度に関するパンフレット等を取り寄せ玄関に置きポスターも掲示し、必要に応じて情報提供と支援ができるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常生活状況や健康状態など、家族の面会時に、説明や写真で伝えている。状況に変化が生じた場合は、必要に応じて、その都度電話にて報告し、金銭管理については、出納簿に、毎月、家族の確認のサインを頂いている。ホームでの暮らしぶりや行事等は、定期的に発行しているホームだよりで知らせている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット毎に意見箱を設置しているが、家族面会時には声かけをして、要望や意見苦情など言い易い状況作りに努めている。ホームの苦情窓口、並びに公的窓口を紹介すると共に、月に一回、利用者の相談に乗ったり、話を聞いたりする介護相談員を受け入れている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	高齢者において「馴染みの関係」の重要性を十分に理解し、不必要な異動はしないよう細心の配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用については、年齢、性別は対象にはしていない。介護経験を有する、男女の職員が落ち着いた雰囲気勤務している。利用者に支障のない範囲での、社会参加のための勤務調整を行なっている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	同一法人施設での情報交換や勉強会を実施している。日常の勤務においては、人権を尊重する意識を念頭に、明るく思いやりの心を持って接している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市主催の研修会で、地域密着型サービス、介護保険制度について等の研修に参加し、報告書を作って全職員に回覧したり、また、毎月ビデオでの介護の知識や技術についても学習している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年1月から始った市主催の地域密着型施設交流会に参加し、同業者間相互の事例発表などで介護方法の情報を得たり、意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が納得出来るよう利用開始前に、体験利用を勧め、本人のペースに合わせ一日お茶の時間を共にしたり、昼間をともに過ごして他の利用者と馴染みの関係が構築できるよう、家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に、食事の準備をしながら、旬の食材のことや調理の方法などを利用者から学び、畑の手入れ、洗濯ものたたみなど日常生活を共有し支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と日々関わる中で、本人の意向や希望を聞いたり、言動から把握している。言動の少ない利用者には表情やしぐさで、また、家族からの聞き取りで把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの希望に添うよう、本人や家族の要望を聞き、課題となることを全職員で検討し意見交換を行ない、可能な限り本人や家族の意向が反映された介護計画の作成に取り組んでいる。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には三ヶ月毎に介護計画の見直しを行なっている。利用者の状態に変化が生じた場合には、必要な関係者と計画の見直しを行ない、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時のお見舞、受診や自宅への送迎、家族の宿泊、食事の提供、同一法人運営の老人保健施設へ親睦・交流を目的とした訪問、訪問歯科の受け入れなど、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には在宅時のかかりつけ医の受診とし、利用開始時に本人や家族に説明している。状況に応じて家族か、職員が受診に同行し、受診時の情報提供に努め、適切な医療を受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人や家族に看取りについて説明し、希望を確認している。これまでに数名の看取り支援を行なっている。家族や医師、看護師、職員等と連携を密にし、ながら重度化や終末に向けた方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報等の記録については、職員室にて管理している。利用者への声かけや介護については、尊厳を大切に職員間で十分に気をつけている。職員は入職時に「個人情報保護法に関する誓約書」を提出している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望で菜園の手入れ、食事の準備や後片付けなどまた、100歳でお元気な方には好天時に散歩へと、利用者一人ひとりの希望に添いながら柔軟に対応している。思いをうまく伝えられない方には表情を見ながら声掛けし、思いを把握するように努め支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食の準備や毎食後の下膳、テーブル拭きなど利用者個々の対応能力に応じて職員とともに同じテーブルで会話を楽しみながら同じ物を食べている。また、おやつは利用者と職員とで一緒に楽しく作っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は日曜日以外、週三回午後に実施している。利用者の希望に応じて、毎日入浴される方もいる。拒否される利用者については翌日に変更したり、家族の協力を得ての入浴の場合もある。入浴剤や、季節に合わせてユズを入れたり、本人のペースに合わせて入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	玄関には、利用者が活けられた花が飾られ、習字などの作品が掲示されている。利用者は畑の手入れをしたり、おやつ作りの手伝い等、日々の生活の中で利用者に合わせた気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により、敷地の中や外への散歩に出かけている。又、買い物や季節ごとのお花見など戸外に出かける機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	中庭へは、自由に出入り出来るように施錠はしていない。玄関は自動ドアで事務所にて調整している。利用者の行動が、落ち着かない時には、見守ったり、希望に添って一緒に出かけるなどの支援をしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導のもと、昼、夜間を想定した訓練を、年二回実施している。職員は、通報、避難誘導、消火器操作、避難場所などを周知している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、法人の管理栄養士作成の献立を使用し、キザミ食など、利用者個々に合わせて提供している。10時、15時には、お茶、クズ湯、清涼飲料水を用意し、食事と共に、摂取量を記録し、一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やリビング等ホーム内は明るく、広々としており天井も高く快適である。浴室は、清潔で衛生面に留意されている。リビングには数人で楽しめるソファが置かれ、畳敷きの所にはミシンが置いてある、窓からは成田山の巨大な観音像が見え、壁には利用者の写真や、習字が飾られ、食事時間のおしらせも掲示されており、居心地よく過ごせるよう、工夫をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時からの馴染みの家具や、調度品が持ち込まれ、運動好きな利用者の部屋には、エアロバイクが置いてある。畳敷きのベットには、調整自在の補助具が取り付けられ、全室に空気清浄機が設置されている。利用者にとって生活しやすく居心地良く過ごせるよう工夫している。		